

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童デイサービスセンター みどり					公表日	令和8 年 3 月 31 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		室内活動でもゆったり過ごせる、スペースを確保している。また、個室で休める空間を確保している。	児童一人一人が気持ちよく利用できるように環境調整に取り組んでいく。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6		受け入れ前にミーティングを行い、利用人数の確認、活動時の安全面の確認を行っている。	児童の状況に合わせて事前に打ち合わせをし、安全な受け入れ態勢を整えていく。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		施設内には視覚情報で理解できるように絵や文字で個室やトイレを示している。	今後、環境上の配慮がなされているか、こどもたちの過ごしている様子から工夫を行っていく。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日の清掃を行い、受け入れ態勢を整えている。テーブルの配置を活動に合わせて変更している。	適宜、経年劣化による修繕、必要な個所がないか検討を行っていく。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		男女それぞれに個室を用意している。個室で使えるように配慮している。	今後にも必要に応じて、個別の部屋が利用できるように環境を整えていく。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		朝の申し送り、月に1回の児童デイ会議を設け、情報共有の場がある。	職員全員が参加できるように勤務の調整や仕組みを作りに努めている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者評価を実施し、職員と改善に向けた話し合いを行っている。	職員全体で、保護者の意向を把握し、よりよい支援ができるよう改善したい。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		朝のミーティング、受け入れ終了後のミーティングを1日2回ほど実施している。	日頃から意見の出しやすい場を作り、よりよい支援へ繋げられるよう、業務改善に努める。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6			外部評価の実施に至っていない。今後必要に応じて検討したい。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		法人内研修や外部研修などの受ける機会が充実している。	今後も最新の情報や専門性スキルを向上させるために資質向上に努める。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		支援プログラムをホームページにて公開した。	支援プログラムを保護者会にて周知・説明を行う。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		計画相談員や学校、関係機関と連携して作成している。	今後もアセスメントをもとに職員とニーズ課題の分析を行って、個別支援計画作成を行う。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		職員間の連携を大切に、支援に関わる職員同士で情報共有を行いながら、一貫した支援に努めている。	統一した支援が継続して行えるよう、記録内容や情報共有の充実を図り、支援の質向上に努めていきたい。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		個別支援会議における決定事項を全職員へ周知し、職員が随時確認できる体制を整備することで、個別支援計画に基づく適切な支援の実施に努めている。	決定事項を職員がより確認しやすい環境づくりを進め、個別支援計画に沿った支援の継続的な実施に努めていきたい。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		日々の記録や行動観察を通して得られた情報を共有し、アセスメントを踏まえた支援計画の作成や実践につなげている。			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		ガイドラインに沿った支援内容を踏まえ、個別支援計画書に反映している。	ガイドラインに基づく支援内容を踏まえつつ、児童一人ひとりの特性やニーズをより丁寧に反映した個別支援計画の作成に努めていきたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		職員それぞれの視点や経験を活かしながら、より良い活動となるようプログラムの立案を行っている。	活動後の振り返りや児童の反応を踏まえ、職員それぞれの経験や視点を活かした、より効果的なプログラム立案に努めていきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		事業所見学や研修等を通じて得た知見を踏まえ、活動内容を定期的に見直し、固定化しないよう取り組んでいる。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		子どもの特性やニーズを十分に理解した上で、活動内容を個別・集団を適切に組み合わせた支援を実施している。	活動への参加状況や反応を振り返りながら、個別・集団活動の組み合わせを見直し、より効果的な支援につなげていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		利用人数や児童それぞれの特性を踏まえて活動の打ち合わせを行い、活動手順を作成することで支援の統一化を図っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		支援終了後には支援内容の振り返り及び気づき・課題等の共有を行い、支援の統一と質の向上に努めている。	振り返りで出た課題や気づきを支援改善へ確実につなげられるよう、検討・実践・評価の流れを強化する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		活動における効果的な支援内容や課題となった対応について記録を残し、多様な視点から支援方法の検討・実践につなげている。	記録した内容が職員間で共通理解され、統一した支援に活かされるよう共有方法を工夫する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		定期的なモニタリングを実施し、児童の生活状況や環境の変化に応じて、適切な支援内容の見直しを行っている。	今後、保護者からの情報収集や意向確認をより丁寧に行い、生活状況や環境変化を踏まえたモニタリングの充実を図る。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6		月間活動計画の中に、ガイドラインの4つの基本活動の視点を取り入れ、複数の活動を組み合わせながら支援を実施している。	引き続き、ガイドラインの4つの基本活動の視点を踏まえ、複数の活動を組み合わせた支援内容の充実に努めていきたい。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		子ども会議を開き、「行ってみたい場所」「やってみたいこと」など話し合い、実行まで計画を立てている。	今後も各行事や活動の内容について、子どもたちと一緒に考える機会を設けていきたい。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達支援管理責任者を中心に参加体制を整え、受け入れ状況や支援内容に応じて児童指導員も参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		地域の公民館では公園利用時にあいさつやこども居場所づくりの会議等で積極的に関わっている。	緊急時には関係機関と連携した会議を実施しているが、日常的な連携体制の構築や情報共有の仕組みについては更なる充実が必要である。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		学級担任と引き継ぎ時に情報交換を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		就学前に利用していた関係機関と直接的な情報共有はできていないが、計画相談を通して、情報共有している。	就学前の関係機関と円滑な情報共有が行えるよう、日頃からの連携や関係構築の強化に努めていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		前年度は対象の児童がいなかった。	今後対象となる児童がいる場合に備え、障害福祉サービス事業所等との情報共有や支援内容の引継ぎ体制の整備に努める。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		こども発達支援センターあすいろが開催する研修に参加。	今後、必要に応じて事業所訪問してもらい、助言を受けたり、事業所での研修実施検討したい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6		法人内で交通安全教室を実施し、法人のまつりに地域の子どもたちに参加してもらい交流を図っている。	今後、学童や児童館等と連携し、子ども同士の交流機会を増やすことで、多様な人との関わりや社会経験を積める環境づくりに努めていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6		管理者が参加、共有することができた。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時にその日の様子や出来事を共有し、必要に応じて面談や電話相談の機会を設けている。	

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	家族が参加できる研修や講演会等の情報提供を行っている。	
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に運営規程、支援プログラム、利用者負担等について書面を用いながら説明を行い、保護者が理解しやすいよう具体例を交えながら丁寧な説明を心掛けている。	不明点について質問しやすい環境づくりを意識し、丁寧な対応に努めている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		計画作成時には、面談や日々の情報共有を通して、児童や保護者の意向・困り感・目標を丁寧に確認し、本人の意思や家庭の考えを尊重しながら支援内容の検討を行っている。	支援内容は具体例を交えて説明し、保護者の理解や意向を確認した上で同意を得よう努める。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		放課後等デイサービス計画を提示しながら、支援目標や具体的な支援方法について分かりやすく説明を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		送迎時の日常的な情報共有に加え、必要に応じて面談や電話相談の機会を設けている。保護者の悩みや不安に寄り添いながら相談対応を行い、必要な助言や関係機関との連携につなげている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	6		年に2回の保護者会や親子レク等で交流の場を設けている。	今後、兄弟への声掛けも徹底的に行っていきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		相談や申し出があった場合は、電話や面談にて迅速にかつ適切に対応できるよう努めている。	苦情受付・解決担当者は重要事項説明書に記載し、契約時に説明。今後も迅速な対応に努めていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		ホームページにて行事や活動の様子をアップしている。	今後は、定期的に発信できるよう努めていきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報に記載された書類は鍵付きキャビネットにて保管している。	今後も個人情報の取り扱いには十分注意していく。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		児童の理解度や特性に応じて、絵カードや写真、短い言葉などを活用し、保護者には分かりやすい説明を心掛けるなど、意思疎通の工夫を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		法人全体でのお祭りへ地域の方々をお招きしている。また、専門学生、大学生の実習の受け入れを行なっている。	今後も、地域を巻き込んだイベントの企画・実施について検討していきたい。
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各種マニュアルは策定済。職員会議等で周知を徹底している。また、研修を行い理解を深めている。	今後は、ホームページ等を活用し、保護者への情報発信や周知方法の充実について検討していきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		BCP策定済。法人全体で訓練を行なっている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時に保護者に聞き取りをし、基本情報を確認している。	てんかん発作時の状況について保護者へ確認を行い、看護師と情報共有を図るとともに、対象児童の状況や対応方法について定期的に確認・見直しを実施している。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		契約時に診断時期や医師の指示があるか確認をしている。また、施設内の看護師、管理栄養士を交え情報共有を行っている。	専門職と情報共有、連携を意識し、事故を防ぐ。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成、安全管理に必要な研修・訓練を法人全体で行っている。	毎月、重点点検箇所を設定した安全点検を実施し、施設内設備・活動備品・緊急連絡先等の確認や見直しを行うことで、安全管理の徹底に努めていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		保護者会での周知している。	

	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	ケガや事故につながる前に小さな気づきを『グリーンレポート』で、法人全体で共有、話し合う場がある。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	虐待防止のため、職員研修の機会を確保するとともに、虐待防止に関する周知・共有を行い、適切な支援と対応に努めている。	年に数回は法人全体でグループに分かれ、研修を開催している。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	保護者に対し、具体的な支援方法や事例を示しながら支援内容について丁寧な説明を行い、理解と同意を得ている。	護者それぞれの理解度やニーズに応じて、説明内容や伝え方を工夫できるよう努める。